



令和7年4月30日
浦和明の星幼稚園
園長 栗田 亨

青葉がまぶしい季節となりました。玄関で子どもを迎えていると、「年長さんが居てくれて頼もしい」と年少の保護者の声が飛び込んで来ました。なるほど、母恋しさに泣く年少児に対し、年長児が二人掛かりで靴の脱ぎ履きを手伝い、保育室まで連れて行きます。「できることは、自分でさせてね」と担任からの注文にも応えようとしています。本園の伝統を「つなぐ」光景です。

23日からの懇談会では、各学年に向けご挨拶させていただきました。少しだけ紹介します。年長組は、初めて年長を担任する2名を含め、最も若い学年です。年少児と手をつないで行った園庭指導では、担任だけでなく年長児が年少児に遊具の安全な使い方を伝える場面が数多く見られました。先生の代わりにすることで「やってみたい」が広がる貴重な体験となりました。年中組は、昨年度の持ち上がり担任が一人も居ない代わりに、担任補助として面倒見てきた2人と他のカトリック園で経験を積んだ教員で、一クラス20人という少ない子どもを見ます。昨年度5回も外に出て、一人もへこたれない元気な子供たちと、新しい伝統を築いてくれそうです。年少組は、教員の数に限りがあるため15人と30人のクラス2つという変則的な学年です。未就園児担当で担任補助の教員3人と合計8人の大所帯です。知恵を出し合い、力を合わせて、お子さん一人一人のめあてが達成できるように団結して取り組んでいます。

26日の引き取り訓練は、およそ9割の家庭にご参加いただきました。総出で迎えにいらしたご家庭も多く、お子さんが大切に育てられている姿が垣間見え、とても微笑ましかったです。これに先立つ避難訓練では、年少さんは初めてのことゆえ、保育室では泣く子もいました。外への避難は誰も泣かず、最後までしっかり訓練ができて素晴らしかったです。年中・年長さんは、避難の仕方はもちろん、この時期に訓練を行う意味までしっかり分かって、実践でき、これまた素晴らしかったです。

28日の初めてのお誕生日会では、身振り手振りを交えて次のようなお話をしました。

- ① 次の挨拶は、どっちが気持ちいい？(明るく)「お早うございます」と(暗く)「お早うございます」。そうだね。初めの方、明るい声の方が気持ちいいね。
- ② 「お早うございます」といつも挨拶するのと、嫌なことがあった時には、挨拶しないのとは、どっちがいい？そうだね。いつもする方がいいね。
- ③ 遠くの方から園長先生より先に「お早うございます」と挨拶するのと、通り過ぎてから「お早うございます」というのは？そうだね。先に挨拶する方がいいね。
- ④ (小声での)「お早うございます」と、(伝わる声での)「お早うございます」では？そうだね。声が小さいと伝わらないね。相手に伝わるように挨拶するといいね。
- ⑤ (目を合わせて)「お早うございます」と、(下を向き)「お早うございます」では？そうだね。目と目で挨拶すると、とっても仲良くなれそうだね。

近くのお友達と、目と目を合わせて挨拶してみましょう。どうですか？とっても仲良くなった気がしませんか？挨拶は、人と人を「つなぐ」大切なものです。誰とでも「つながる」最初の一步です。まだな人は、できるように。できる人は、「あいさつめ」の挨拶に挑戦しましょう。

懇談会でもお伝えしましたが、明日は「さいたま市民の日」、明後日は土曜日の振替で暫くお休みが続きます。濃淡はあるものの緊張の1か月を過ごしたお子さんに家族や家庭でしか味わえない経験を、人と人、心と心を「つなぐ」「つながる」体験をさせてください。そして、5月からは誰もが名実ともに新学年生として登園できますように、楽しい時間をお過ごしください。